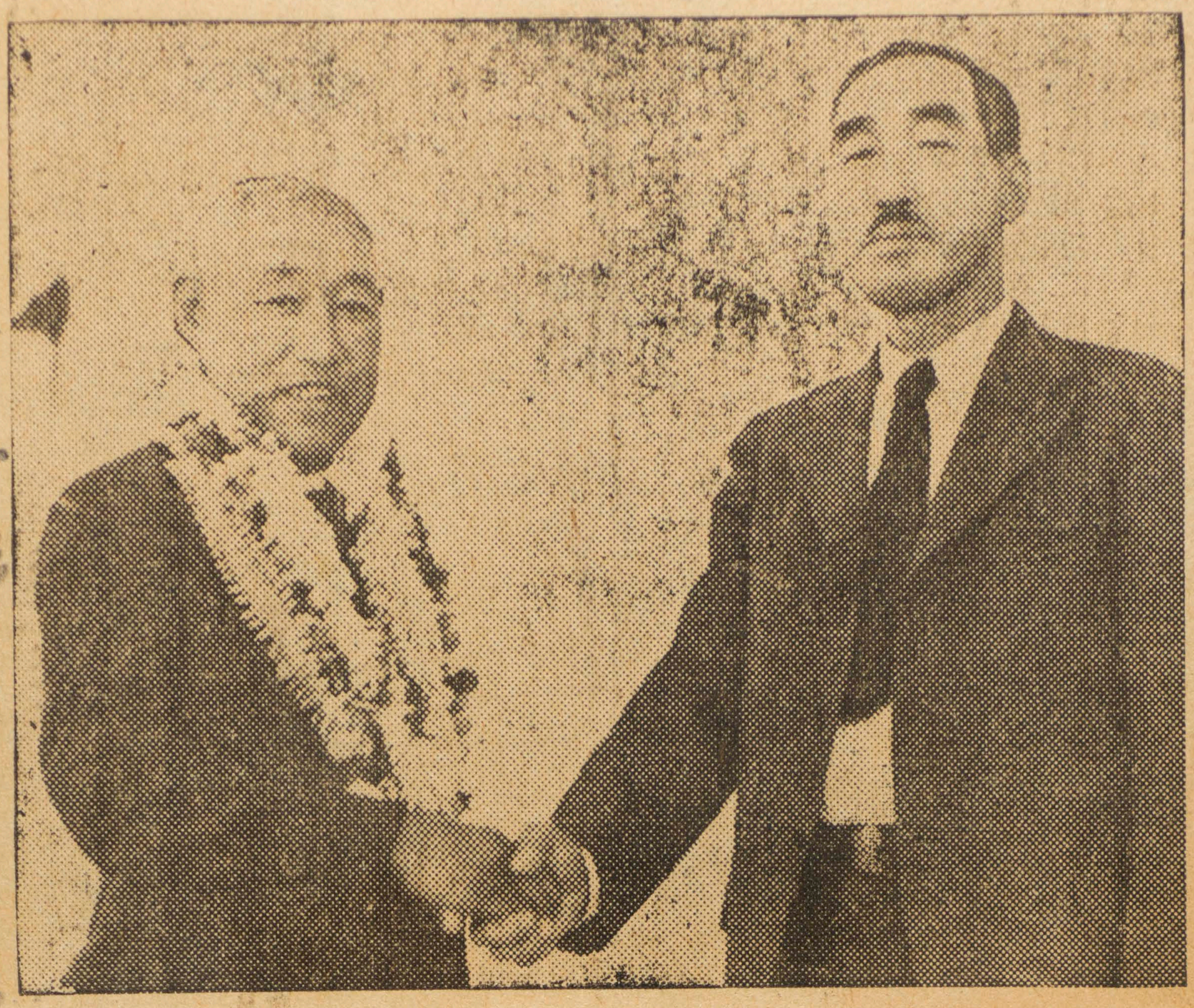

FEB 19 1939

五歳の時別れた叔父さんと四十九年振りに再會

當市堂野文司氏の喜び

アメリカとハワイを距てゝ探し合つてゐた叔父さんと甥が四十九年振りに再會したと云ふ奇縁話——當市カイムキ第八番街七三三堂野文司氏（原籍廣島縣廣島市仁保町字大河六四六）は五歳の時に別れた叔父さんがあつた、叔父さんは堂野吉松と言ひアメリカに渡航したがそれは明治二十五年頃であるその後堂野文司氏もハワイに渡航したが双方文通は絶えて音信なく別れてから約半世紀近い歳月は流れた、當市の堂野氏は何とかして在米の叔父さんの所在を知りたいものだと願つてゐたところ在米の或る知人から加州のサンデーアゴに堂野と云ふ人が居るが親類の人ではないかと問ふて來たので堂野と云ふ姓名は一つしかないからそれは私の叔父さんに違ひないと調べて貰つたところ果してそれが長い間探してゐた叔父の堂野吉松氏であること判明して茲に文通が初まつたが叔父堂野氏はコツクを勤め六十六歳の今日迄獨身で暮してゐるので叔父さん寂しからう、ハワイへ來て一緒に暮しさないと堂野氏が手紙を送つたら叔父さんは喜んでホノルルに來て堂野一家に住むこととなり今十九日のクーリツヂ號で來布、桟橋で叔父と甥が四十九年振りに再會して懐かしい握手を交すと云ふ劇的シーンが演ぜられた【寫眞は向つて右は當市の堂野文司氏、左は叔父の堂野吉松氏】

パラマ零敗す

吾妻に揚る凱歌

ホノルル日本人シニアー野球リーグ吾妻對パラマ戰は昨十八日午後三時十分ホノルル・スタデアムに於て擧行、七對〇で吾妻の大勝に歸した

▲吾妻

得點	二〇〇〇三〇—七
安打	三〇〇一〇三三—十二

過失二、殘壘八
二壘打 田中、藤井
北村投、池野捕

▲パラマ

得點	〇〇〇〇〇〇〇〇〇—〇

◇吾妻の攻勢は劈頭から旺盛を極め、一回二死後三安打を連ねて一點を先取し、津川をプレートから追つた津川はイン・カーヴが入らず、アウト・カーヴを狙ひ打たれたものである

◇代つた森口もコントロールなく、得意のアウト・ドロも思ふやうに出かつた、二回別所を迎へ、最後の回松村打を許したのみで好投を續け、吾妻二點のリードは必ずしも安全地帶の安住を保障するものではなかつた

◇しかるに七回二死後、池野四球、田中右翼線二壘打し、伊藝の三遊間を破る安打で二點入つて勝敗の色は鮮かとなつた

◇森口は史に八回三安打、三點を奪はれて松村のリリ

過失二、殘壘八
大村、岡崎投、岸本捕

▲西部

得點	〇〇〇一〇〇一一三
安打	三〇三二一〇一一十

過失四、殘壘七
三壘打中村
濱田投、山田捕

◇交友は三回上杉の中堅安打で二點、六回桐原の低目のボールをうつかけた右中間安打と、實取の遊野選で二點

◇西部は四回、濱田の中堅安打に續く中村の中堅三壘打で一點とスクイーズによる一點、七回澁谷の三遊間を抜く安打で一點

カカアコ首位を確保

リーグ・スタンデング

	勝	負	比率
カカアコ	4	1	・八〇〇
吾妻	3	1	・七五〇
パラマ	3	2	・六〇〇
モイリリ	3	2	・六〇〇
ワヒアワ	2	2	・五〇〇
交友	2	3	・四〇〇
日本	1	3	・二五〇
西部	0	4	・〇〇〇

▲二十五日（日）四試合
スタデアムにて
午前十時
交友對吾妻
午後一時
西部對パラマ
午後三時
カカアコ對モイリリ
▲ワヒアワにて
午後三時
日本對ワヒアワ

P165.001

ラウンドで開始された、つづ入場式あり、リーグ會緒方校長の挨拶に次いで影佐司勝、山の酒屋山本常一、富士正宗一場守、布哇便利社、飯田翠山堂國粹、博文堂

△試△△△

よりカップ贈呈式、直ちに